

トマトすすかび病菌の薬剤感受性検定結果

農業研究部

1. 研究の背景

大分県の夏秋トマト栽培で問題となっているすすかび病について、有効な防除薬剤を探索するため6薬剤に対する感受性検定を行った。薬剤耐性菌の発生状況を把握するため、主要産地4市町の計33ほ場から菌株を採取し、耐性菌の発生状況を調査した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

感受性検定の結果、アゾキシストロビン剤に対する耐性菌が広く分布していることが判明した。ピリベンカルブ剤に対して感受性低下の兆しが示唆されたものの常用濃度では十分な効果が期待できると思われた。トリフルミゾールも耐性菌は認められなかった。ジェトフェンカルブが最も高い活性を示し、チオファネートメチル剤とイプロジオン剤は防除効果が期待できないことが判明した。トリフルミゾールは防除効果が期待できるが、同一系統薬剤の連用に注意が必要である。

表1 各種薬剤に対する感受性検定結果(2016年)

ほ場	生産者	アゾキシストロビン		ピリベンカルブ		チオファネートメチル*		イプロジオン*		ジェトフェンカルブ*		トリフルミゾール**	
		100ppm	1ppm	100ppm	1ppm	10ppm	1ppm	100ppm	1ppm	100ppm	1ppm	100ppm	
竹田市 荻	1	0	50.0	0	0	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
	2	22.2	88.9	0	0	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
	3	88.9	100	0	22.2	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
	4	50.0	100	0	30.0	100	100	100	100	0	0	0 (85.7)	
	5	50.0	100	0	20.0	100	100	100	100	0	0	0 (44.4)	
	6	70.0	100	0	77.8	100	100	100	100	0	0	0 (90.0)	
	7	66.7	100	0	44.4	100	100	100	100	0	0	0 (25.0)	
	8	100	100	0	70.0	100	100	100	100	0	0	0 (77.8)	
	9	70.0	100	0	25.0	100	100	100	100	0	0	0 (80.0)	
	10	40.0	100	0	10.0	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
	11	87.5	100	0	37.5	100	100	100	100	0	0	0 (40.0)	
	12	100	100	0	44.4	100	100	100	100	0	0	0 (75.0)	
	13	90.0	100	0	70.0	100	100	100	100	0	0	0 (90.0)	
	14	44.4	100	0	25.0	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
	15	90.0	100	0	50.0	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
	16	0	77.8	0	0	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
倉木	17	88.9	100	0	75.0	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
久住 久住	18	100	100	0	44.4	100	100	100	100	0	0	0 (75.0)	
	19	60.0	100	0	33.3	100	100	100	100	0	0	0 (85.7)	
白丹	20	30.0	100	0	20.0	100	100	100	100	0	0	0 (40.0)	
	21	70.0	100	0	60.0	100	100	100	100	0	0	0 (30.0)	
有氏	22	77.8	77.8	0	28.6	100	100	100	100	0	0	0 (66.7)	
日田市 天瀬町	23	60.0	100	0	100	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
	24	100	100	0	88.9	100	100	100	100	0	0	0 (100)	
	25	100	100	0	75.0	100	100	100	100	0	0	0 (77.8)	
九重町 引治 黒猪鹿	26	80.0	100	0	50.0	100	100	100	100	0	0	0 (88.9)	
	27	66.7	100	0	55.6	100	100	100	100	0	0	0 (77.8)	
	相狭間	28	80.0	100	0	30.0	100	100	100	100	0	0	0 (100)
		29	77.8	100	0	88.9	100	100	100	100	0	0	0 (50.0)
	町田 栗原	30	66.7	100	0	66.7	100	100	100	100	0	0	0 (71.4)
31		90.0	100	0	50.0	100	100	100	100	0	0	0 (66.7)	
32		88.9	100	0	88.9	100	100	100	100	0	0	0 (71.4)	
33		50.0	100	0	40.0	100	100	100	100	0	0	0 (71.4)	

注) トリフルミゾール以外の数値は、各培地における菌糸伸張菌株割合 (%)

* は2017年3月現在、トマト灰色かび病に対して適用有り

** トリフルミゾールは対無処理比で30%以上の菌糸伸長が認められたものを耐性菌と判断する。

() 内数値は30%未満で菌糸伸長が認められた菌株割合 (%)

3. 期待される効果

各地域における栽培暦や防除体系を検討する際の参考資料となる。

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム

TEL:0974-28-2078

住所:豊後大野市三重町赤嶺2328-8